

アジアの健康



研修生が4年ぶりにやってくる！

国際研修を知りたい！

p 2

2023年国際研修の見どころ

p 3

研修生ってどんな人？

p 4～5

研修生の合宿って、こんな感じ

p 6～7

ボランティア紹介 日進 点字クラブ ポツポツ

p 8



国際研修を知りたい!

みなさん 国際研修と聞いてどんな内容を思い浮かべますか?
研修職員にインタビューし、いちサポーターなりにAHI国際研修を深掘りしてみました。



Q1: どんな人達が研修に参加しますか?

地域の健康のために働く保健開発ワーカーが
アジア諸国から参加しています。
(今年の研修生はp4-5で紹介)

Q2: どのような研修を行っていますか?

参加型、合宿型研修を行っています。
(合宿の様子はp6-7で紹介)

Q3: 参加型研修の特徴って?

- 1) 立ち返る、問い続ける
- AHI国際研修には基本的に大切にしていることがあります。
- ☆参加者一人ひとりが学びの素材
 - ・自分の経験、知見、悩みを共有。
 - ☆チームの力
 - ・チームみんなでの深い学び合い。
 - ☆大事なのは学ぶ過程
 - ・学びの過程を見つめる。
- 議論を進めていくと脱線しがち。大きくそれた時にはこの原理原則を示し、立ち返るよう働きかけ、問い続けます。
- 2) じっくりどっぷり
- 研修の目標、内容、方法 etc、全ての運営を研修生が担います。また、自身の課題のみならず、他の研修生の課題も自分事として向き合い、とことん話し合います。一方で職員は過程を見つめ、時に進行を止め、意見を促し、研修生がどう参加しているかをじっくり捉えます。

Q4: 結局のところ、研修生は何を持ち帰っているのかな…

研修生たちは研修中に、元々備わっていた力が引き出され、変化していきます。

- ☆変革を生み出す力
 - ・現状を変える力
- ☆ファシリテーターとしての力
 - ・主体的に行動する環境を生み出す力
- ☆コミュニティの対立を解決する力
 - ・地域社会をよくする力

この三つの力を各々のフィールドに持ち帰り、生かし、かつ本人だけでなく周囲に波及し、地域に根付いていく。それがAHIの願いです。現場に持ち帰ってからが本番です。

なんとなく、
理解できたようなないような…。
まだまだ入口に立ったところ。実際の研修を見てみたい!
人が持っているものを引き出す。職員はそのお手伝いをどうやってするのか?
参加型研修は保健開発ワーカー育成のみならず、様々なこと(例えば育児)にも通じるものがあるのではないかな。



イラスト: rikondo.

AHI初心者。
バドミントンとカワセミが大好き!アラ還主婦。

2023年国際研修 (8月28日~9月24日)

の 見どころ

テーマは、「変化をつくりだす次世代育成」。
2020年はコロナで延期され、その後オンラインで実施されてきました。今年は既にオンラインでの研修に取り組んだ5か国10人が来日して行われます。既に知り合い、初めて対面で過ごす研修はどのような時間になるのでしょうか?

2022オンライン

2021オンライン



上3段目左から2番目がリハンさん

2020 コロナのため延期

2023対面

待ちに待った対面!

準備段階の研修生からは「あれもこれもしたい」と大きな理想が語られています。対面での限られた時間の中で、向き合える課題は三つか四つ。研修生たちはお互いにどのように関わりあい、どんな気づきや手ごたえを見つけていくのでしょうか。

◆研修の様子は随時発信



AHIweb Facebook

研修生たちの変化に注目!

2021年のオンライン研修では、AHIが何かしてくれるとやや受け身に見えたりハンさん。今では、他の研修生を見守ったり、自ら他の研修生に発言を促したり、変化を恐れずいろんなかわり方を試みています。研修生同士の関係性が変わり「やってみよう」という変化が生まれています。対面研修でそれぞれの研修生にどんな変化が生まれてくるのでしょうか。

研修職員のわくわくドキドキ

高田: オンラインの研修や準備会合ではデジタルツールばかり使ってきたので、今度はアナログに徹してみたい! 手間暇をかけるからこそ得られるものがあると思います。日々、それをみんなで感じられたらいいな…。

大熊: これまでのオンラインでは少しいかっこをしていたかも!? 体当たりでやってみたい! 元研修生にもかかわってもらえる場をつくるなど、新しい取り組みもある中で、私自身も研修でいろいろチャレンジしていきたいです。



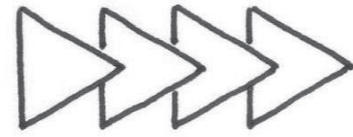
左: 大熊、右: 高田

準備中

こと大事にする。/研修はラボラトリー。トライ&エラー。常に自分のありようを見直し、変えていっていい。/AHIの研修は組織づくり。人づくり。リーダーづくり。対象が人そのもの。/私たちもそんな研修を受けてみたいな。

応募は元研修生からの口コミが決め手になることが多い。/現場にいるとだし。ここではとことん考え、向き合う時間。/人によってチャレンジが違う。自分をさらけ出すというのは大変なことだ。/想定外の化学反応が起こる

研修生ってどんな人？



日本で会えるのが楽しみです

パキスタン



アマン リバーサイド開発協会

スラム地区で人権啓発活動、保健医療サービスの提供、若者グループ結成などの活動をしています。私が知っている日本の有名人はマンガやアニメのキャラクターばかりです。ナルト、ピカチュウ、ルフィ、キラ、アスタ、もっとたくさん知っていますよ。

日本で食べてみたいものはチキンカレー、ラーメン、味噌汁と和牛ですね。お酒にも興味があります。



リハン

調査政策提言
社会変革研修協会

大学生ネットワークを作り、若者による若者のための人権啓発、擁護活動をサポートしています。

私の国、パキстанは文化、環境面で多様です。高い山、緑の渓谷、砂漠、氷河、暑さ寒さ、食べ物も様々です。いつか登山家になって雪に覆われた気高いパキスタンの山々の頂に立ちたいです。



テリーム ブルー・ペインズ

女性に対する不平等な社会的習慣が根強く残る地域で、若い女性グループの話合いの場をつくり、さまざまな情報を交換できるようにサポートしています。

休みの日には趣味のグラフィックデザインをして過ごしています。日本に行ったら豆腐とラーメンが食べてみたいです。何か問題が起きても「どんな出来事にも理由がある」と思っががんばっています。



インド



アヤ カマソム村 カヤンコ地区青年会

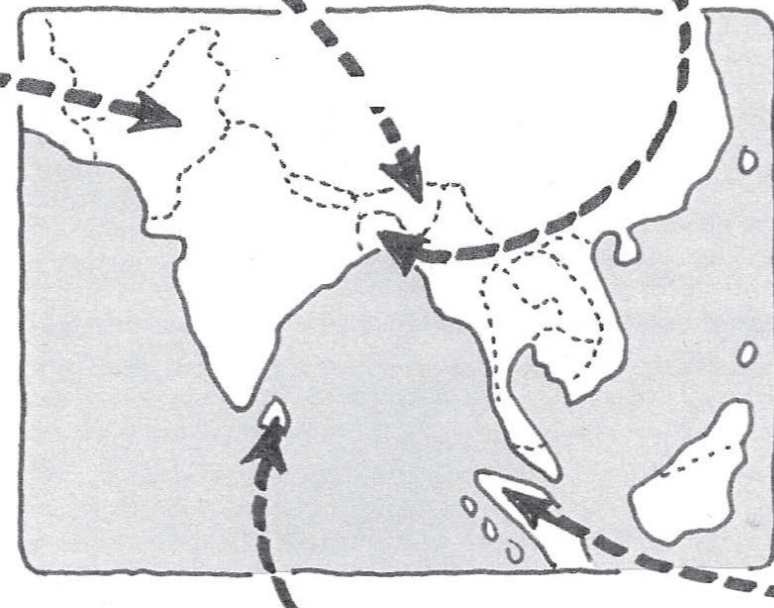
ミャンマーとの国境に近い山あいの村で環境保全活動やスポーツイベントなどの地域活動に関わっています。

オンとオフをうまく切り替えて、晴れ間を見つけては洗濯しています。オンライン会議の時着ていたセーラーカラーの服、あれは“セーラームーン”なのです、うふふ。



ハシャム 前に向かう青年会

児童労働の問題、若者の為の活動に力をいれています。リハンさんの団体と一緒に三つの村の若者のために進学手続きや学習サポートを行っています。みんなで話し合うたびに発見があり、いろいろな意見を取り入れることができるようになったかな。



バングラデシュ



シヨルナ 障害開発センター

障害者の人権保障や社会参加促進のため当事者や家族グループを作り交流、助け合いの場を提供しています。

日本と言って思い浮かぶのはまず桜、勤勉な人々、礼儀正しい子どもたち、サムライ、アニメそしてテクノロジーの国ですね。私は村上春樹のファンで『海辺のカフカ』がお気に入り。日本でフワフワのチーズケーキ、ウナギ、オムライス、ホンモノの天ぷらやラーメンも食べてみたいな。



サラム 障害開発センター

シヨルナと同じ団体で活動しています。お寿司と日本の魚が楽しみ。ぼくがおすすめるバングラデシュのいいところはなんと言っても自然の美しさです。休みの日はクリケットやフットボールなどのスポーツ観戦を楽しんでいます。



インドネシア

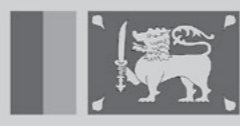


ペトリック バタック・プロテスタント教会
社会福祉部局

スマトラ島北部の高地で暮らすバタックの若者に HIV / エイズの啓発や収入向上活動の支援をしています。バドミントン、フットサル、水泳、卓球などスポーツならなんでも大好きで、休みの日には友達と楽しんでいます。バドミントンの桃田選手がインドネシアでは有名人ですよ。困っている人たちみんなの為に尽くしたいと思いながら毎日働いています。



スリランカ



ラクシリ 全国漁民連合

若者たちが主体になって植樹、地域清掃、防災活動ができるように22年間サポートしています。今回一緒に参加するタクサさんは自分の意見をはっきり言ってくれる大切な存在です。

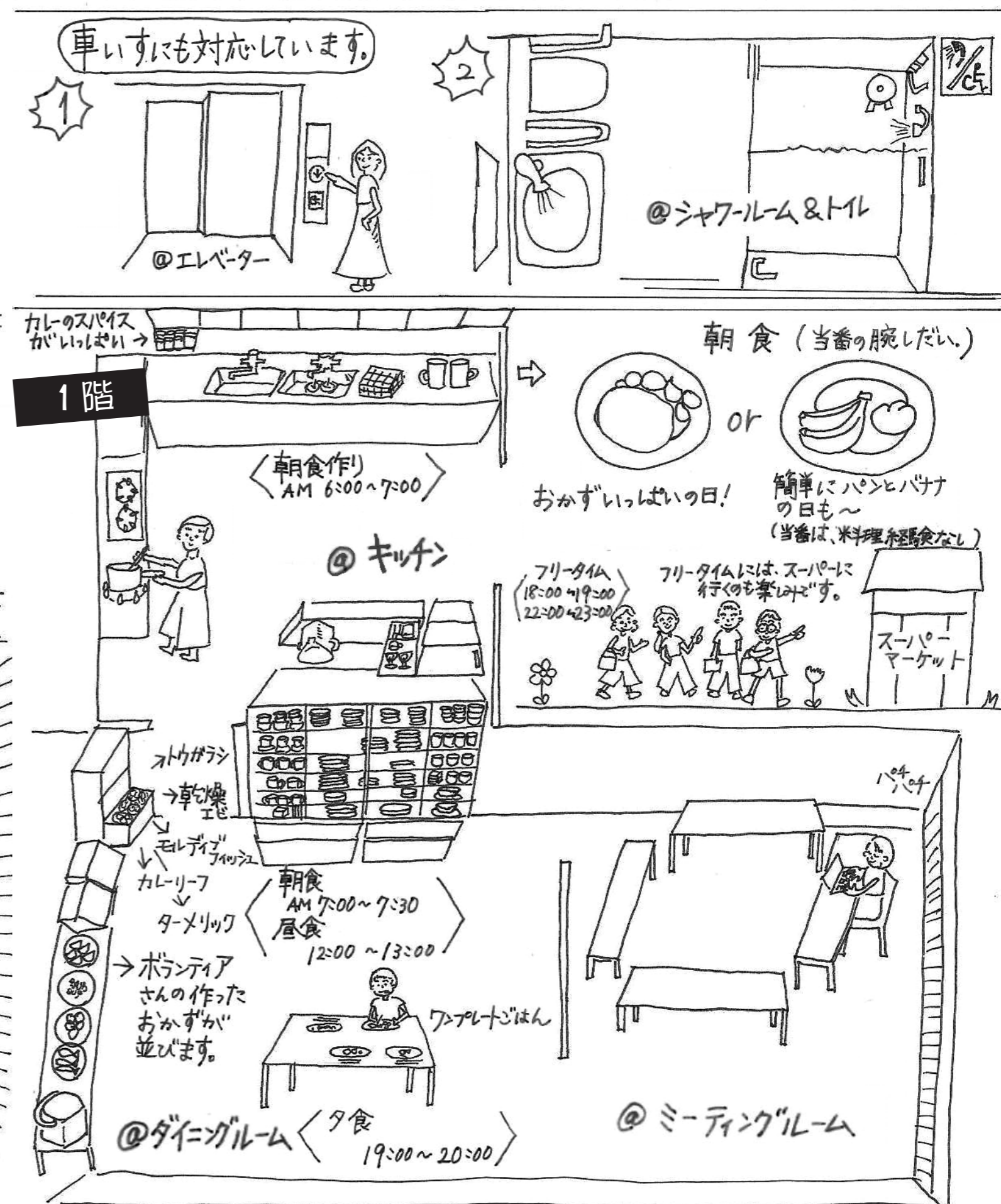
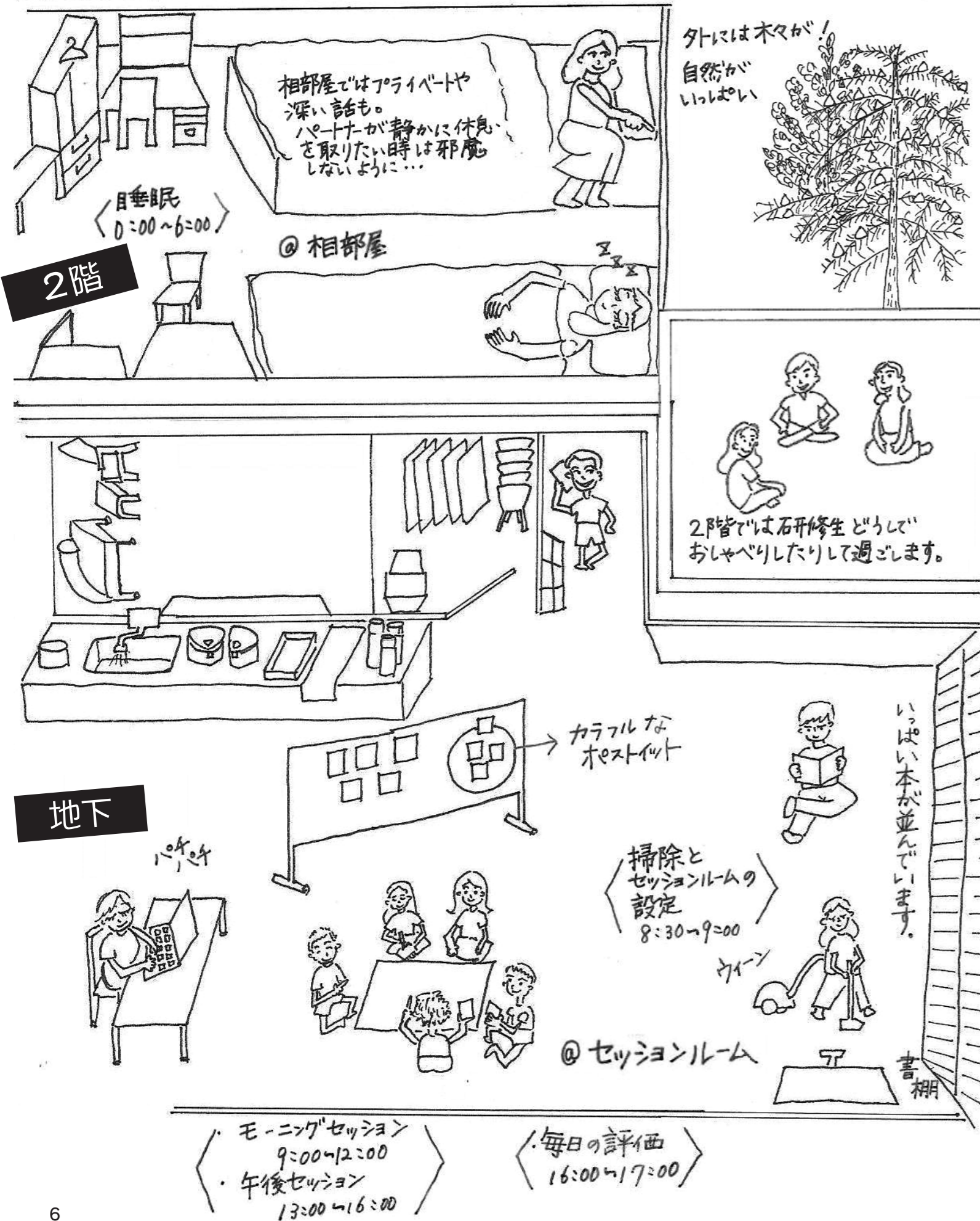


タクサ 全国漁民連合

全国漁民連合には学生のころにボランティアとして参加していました。今は生まれ育った地区のコーディネーターをしています。一緒に参加するラクシリさんはとても穏やかでみんなから親しみを込めて「ラッキー」って呼ばれていますよ。

研修生の合宿って、

こんな感じ



註：実際の時間は、研修が進む中で決めています。

ボランティア紹介

『アジアの健康』ができあがるまでには、たくさんのボランティアに支えられています。今回はその一つ、愛知県日進市で活動する点訳ボランティアのみなさんにインタビューしました。

日進 点字クラブ ポツポツ

ポツポツのメンバーは10人。パソコンのアプリを使って点訳するのは市の刊行物や、時には個人から依頼のミュージカル台本や大学の教科書、炊飯器の取説なんでものもの。

『アジアの健康』点訳本は、現在お一人の会員にお届けし、事務所で利用できるようにしています。点訳本利用者からは、「会報の発行回数が減って寂しい。会報はきれいな点字」との声が寄せられています。

「点字を打つ作業は、地味で根気が必要」というみなさん。どうして続けられるのでしょうか。

あるメンバーの心に残っているのは、教科書の点訳が始まった時に「みなさん、アヤコさん（点訳依頼者）のために頑張りましょう」という代表・村瀬さんの一言。この素敵なお言葉に「ここでやろう」と思ったそうです。

コロナ禍でメールのやり取りだけになっても、仲間の存在が活動を支えていました。

ポツポツの活動としてもう一つ大事にして



実践教室用で使う教材。打つ時は右から左

いるのが、小中学校の福祉実践教室です。子どもたちは点字板を使って自分の名前を打ち、それを視覚障害者に読んでもらうと、「点字



写真以外にもメンバーは3人

が通じた」と、とても喜ぶそうです。

「大きくなったらお手伝いしたいので活動を続けてください」と児童から励まされたり、高校生になった生徒がボランティアにきたり、点字だけでなく、ボランティア活動が次の世代に繋がっていると実感できたといいます。

工夫が必要な写真や図の点訳。たとえば写真につけられた「左から何番目が〇〇さん」という説明も、『『どうせ見えないでしょ』と省くのは、読む人に失礼。書かれていることすべてを点訳する労力は惜しみません。きっぱりとした口調に、点字を通して視覚障害者と誠実に向き合う姿がありました。

村瀬さんの悩みは、メンバーがなかなか増えないこと。「忘年会もあるよと誘ってるんだけど」というと、「私もそうやって誘われた」と一同大笑い。和気あいあいとした雰囲気が伝わってきました。

〈『アジアの健康』点訳本をご希望の方はAHIまで〉



※点訳ボランティアに興味のある方は日進市社会福祉協議会まで。

ご寄付・賛助会員募集中

皆さまからのご寄付・会費は、AHIが目指す「誰もが尊重され、健康に暮らせる社会」づくりのための活動に使わせていただいています。ご寄付・ご入会の詳細は、こちらのQRコードから。



編集後記

新スタートをきった今号は、編集委員ボランティアと職員にとって、挑戦の連続でしたが、ようやく発行にこぎつけました。これからも、読者の皆様からAHIをより身近に感じる会報を作っていきたいです。（関口）